

## 平成 28 年度事業「提案型」における状況報告

国立研究開発法人 建築研究所



# 平成28年度事業「提案型」における状況報告

(国立研究開発法人) 建築研究所  
長期優良住宅化リフォーム推進事業評価室

1

## 「提案型」公募について

- 必ずしも評価基準では評価できない性能向上工事、長期にわたって住宅を維持保全する仕組み等について、幅広い提案を受けるもの。

(そのような多様なリフォーム手法等の知見等を収集し、今後、新たな性能向上手法・低コスト化・工期短縮等の実現を図る。)

- 昨年度からの変更点 (補助対象の追加)
  - 平成28年4月より開始の「増築・改築に係る長期優良住宅認定制度」(長期優良住宅(増改築)認定制度)による認定を取得したもの
  - 「三世代同居改修工事」(調理室、浴室、便所、玄関の増設工事費)

2

## 「提案型」公募概要 (1)

### ■ 応募要件

#### ①先導性・汎用性・独自性等の高度な提案性

(例) 新技術の導入、地域性への対応、低コスト化、維持保全等

#### ②リフォーム後の住宅性能のうち、劣化対策のA基準（またはA基準相当）、耐震性のA基準を満たすもの

#### ③一定の規模を満たす既存住宅

#### ④インスペクションの実施（それにより判明した劣化事象に対応すること）

#### ⑤本事業のリフォーム工事の履歴と維持保全計画を作成

#### ⑥平成29年12月1日までに完了実績報告書を提出すること（工事完了後1ヶ月以内に提出）

### ■ 対象事業者

#### ①工事発注者 ②施工業者（単独またはグループ提案）

3

## 「提案型」公募概要 (2)

### ■ 補助限度額

- 補助率：建設工事費等に係る金額の1/3以内（上限あり）
- 1住戸あたり100万円を上限が基本（150万円\*）
- 全ての項目においてS基準（S基準相当）で、かつ提案の先導性・汎用性・独自性等が認められる場合は200万円（250万円\*）を上限
- 長期優良住宅（増改築）認定を取得したもので、かつ提案の先導性・汎用性・独自性等が認められる場合は200万円（250万円\*）を上限とする

\*）三世帯同居改修工事を実施する場合の上限

### ■ 住宅性能の評価区分の対象項目

- リフォーム工事実施後の性能について、S基準（相当）・A基準（相当）の措置の概要および根拠を記載
  - 戸建て住宅：①構造躯体等の劣化対策 ②耐震性 ③省エネルギー対策 ④維持管理・更新の容易性
  - 共同住宅等：戸建て住宅の対象項目+⑤高齢者対策 ⑥可変性等

4

## 「提案型」公募概要 (3)

### ■ 提案型長期優良住宅化リフォーム工事の提案内容 (提案項目) ※複数の提案項目にまたがる提案も可

#### ● ソフト技術

##### ① 生産・流通体制 (ソフト技術全般)

1) 維持保全 2) 生産体制 3) 流通

#### ● ハード技術

##### ① 構造躯体等の劣化対策 ② 耐震性 ③ 省エネルギー対策

##### ④ 計画・維持管理等 (維持管理・更新の容易性、高齢者等対策\*\*、可変性\*\*、その他)

1) 設計 2) 施工 3) 維持保全 4) 調査 5) その他

\*\* ) 共同住宅を対象

5

## 「提案型」評価方法

### ■ 評価体制

- 評価委員会の下に、専門委員会を設けて、提案内容を評価した。
- 応募者が申請書類にチェックを入れた提案項目に従い、該当する専門委員会で提案内容を評価した。提案項目が複数の専門委員会にまたがる場合は、それぞれで評価した。



6

# 評価委員会・専門委員会委員

評価委員会	深尾 精一○	首都大学東京名誉教授
	秋元 孝之	芝浦工業大学
	五十田 博	京都大学
	楠 浩一	東京大学地震研究所
	松村 秀一	東京大学大学院
	中川 雅之	日本大学
	長谷川 直司	建築研究所
	高橋 暁	建築研究所
	藤本 秀一	国土技術政策総合研究所

劣化対策 専門委員会	長谷川直司○	建築研究所
	近藤 照夫	ものづくり大学
	中川 貴文	国土技術政策総合研究所
	濱崎 仁	芝浦工業大学

構造 専門委員会	五十田 博○	京都大学
	楠 浩一	東京大学地震研究所
	長谷川 隆	建築研究所
	藤田 香織	東京大学大学院
省エネルギー性 専門委員会	秋元 孝之○	芝浦工業大学
	鈴木 大隆	北方建築総合研究所
	三浦 尚志	建築研究所
	西澤 繁毅	建築研究所
計画・維持管理 専門委員会	藤本 秀一○	国土技術政策総合研究所
	大塚 雅之	関東学院大学
	佐藤 克志	日本女子大学
	高橋 暁	建築研究所
生産・流通体制 専門委員会	松村 秀一○	東京大学大学院
	朝吹香菜子	国土館大学
	角倉 英明	広島大学大学院
	中川 雅之	日本大学

○は各委員会の委員長・主査 7

## 「提案型」応募状況 (1)

### ■ 公募期間

- 平成28年6月3日～平成28年7月4日

### ■ 応募件数

- 14者19件の応募を得た（うち複数提案は3者8件であった）昨年度（65者117件）より減少している。

### ■ 提案項目別の応募件数

- 劣化対策に関わる提案が15件(79%)と最も多かった。最も少ない計画・維持管理に係わる提案でも9件(47%)ある。1つの提案に幅広い内容を盛り込んだものが多い傾向にあった。

表 提案項目別の応募件数と割合

※1件の応募で複数提案あり

	劣化対策	構造	省エネルギー性	計画・維持管理	生産・流通体制
件数	15件	12件	13件	9件	11件
割合	79%	63%	68%	47%	58%

## 「提案型」応募状況 (2)

### ■ 応募内容

- **戸建住宅**に関する提案が**14件(73.7%)**で最も多かった。戸数も最も多く、1件当たり**14.7戸**であった。
- **共同住宅**の提案件数は専用部、共用部ともに少ないが、戸数に関しては、**888戸**と昨年度(**279戸**)に比べて大幅に増えた。

表 提案項目別の応募件数と割合

	戸建住宅	共同住宅 (専用部)	共同住宅 (共用部)	合計
件数 (割合)	<b>14件</b> (73.7%)	<b>3件</b> (15.8%)	<b>2件</b> (10.5%)	<b>19件</b> (100%)
戸数 (割合) 【件数当たりの戸数】	<b>206戸</b> (18.8%) 【14.7戸】	<b>442戸</b> (40.4%) 【147.3戸】	<b>446戸</b> (40.8%) 【223戸】	<b>1,094戸</b> (100%) 【57.6戸】

9

## 「提案型」採択実績

### ■ 審査時期

- 公募終了から平成28年8月上旬  
(審査結果は8月下旬に建研記者発表・HP等で公表)

### ■ 審査結果

- 専門委員会、及び評価委員会での評価の結果、**6者7件の提案を採択**することとなった。
- なお、**1者**に対して**補助上限額200万円**の採択に値する提案（特に優れた提案があり、かつ全ての評価項目についてS基準又はS基準相当とする提案）に該当するものと評価した。

10